

一学校だより 2023年 11月10日 第29号
(令和5年) (NOVEMBER:霜月)

みはらっ子

☆学校教育目標…「気づく つながる 創り出す」
～認め合い 学び合い 高め合う児童～ 文責 嵐

11月8日は、立冬。季節の移ろいを感じる頃となりました…暦の上では、この日から「冬」です。今年は、11月を迎えても日中は、温かい日が続きましたが、太陽の光が日ごとに弱くなり、朝夕の冷え込みに冬のおとずれを感じるようになりました。霜降(そうこう:10月24日)から立冬のころに吹くつめたい風は、赤や黄色に色づいた木の葉をはらい落とし、枯れ木にしていくので「木枯らし」とよばれています。そして、カエデ(モミジ)は寒さが深まるにつれて赤く色づき、サザンカの花がさきはじめ、ホウレンソウ、カブ、柿などが食べごろになります。

第12回三原村・保小中合同発表会を開催することができました…11月7日(火)に、「三原村保・小・中合同発表会」を開催することができました。ご来場のみなさん、ご多用の中、ご参観頂きありがとうございました。子どもたちは一生懸命、そして堂々と発表することができました。終わってからの笑顔は、やりきった満足感にあふれていました。さらに、どの子にとっても大勢の前で披露できたことが、「自信」と「勇気」につながっていくのだろうと思いました。

保護者、地域の方のみなさんのやさしいまなざしとご声援が、三原村の子どもたちの大きな励みとなります。これからも、保小中の教育活動に対しまして、心温まるご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



保護者のみなさんによる、動画や写真撮影の様子です



1・2年生・元気いっぱい：合奏「ミッキーマウスマーチ」



1～6年生・合唱：「宝島」



3～6年生・合奏：「Code Blue」

11月10日、中央区音楽祭が、4年ぶりに四万十市文化センターで開催されました



保育所・そらぐみ(5歳児)：踊り「ツバメ」

子どもの成長と子育て四訓について…手離すことの大切さ

育児については、

- 1 「乳児はしっかり肌を離すな」
- 2 「幼児は肌を離せ、手を離すな」
- 3 「思春期は手を離せ、目を離すな」
- 4 「青年期は目を離せ、心を離すな」

と言われます。そのような形を徐々にとりながら、人間は自立、成長していくものだとある医師が、強調しています。さらに、母親的な愛情の重要性について、赤ん坊は父親・母親に甘え満たされ、だんだん自立していく。その依存欲求が満たされないと自立は難しくなるとも言われています。

小学校高学年・中学校の時期はとりわけ「思春期は手を離せ、目を離すな」の時期でしょう。高学年から中学生は家族、友人、地域、他者との関わりの中で社会性が育つ時期です。ここではしっかり手を離して活動範囲を広げてやる必要があります。

一方、この時期は成長とともに子どもが親に反抗したり心が不安定になったりする時期でもあります。このことは、親や友人に「こちらを向いてほしい」というメッセージを送っているのかもしれない。それは成長の過程であり、親としてはしっかりと子どもに向き合い、共に成長することを心がける時期なのでしょう。

もちろんこの「四訓」の言葉だけで言い尽くされ、うまくいくものではありません。しかし、乳幼児期、思春期へと成長していく子どもたちへの接し方のヒントとなる「四訓」かもしれません。

家庭、地域、学校が互いに連携・協力し、「未来の宝」である子どもたちを共に育てていきましょう。



11月3日のどぶろく祭りで、5・6年生は、伝統芸能「うちわ踊り」を披露しました